

## アカシジミの人工採卵法と母蝶の食樹に対する選好性

清水 典子<sup>1)</sup>・清水 萌花<sup>2)</sup>

### はじめに

以前から母蝶に卵を産ませ、命をつなぐ累代飼育に興味があり、これまで、さまざまな蝶で飼育・観察をしてきたが、ゼフィルスであるアカシジミ (*Japonica lutea*) は、いまだ挑戦したことがなかった。

今回、困難であると言われたアカシジミの人工採卵を試みて、わかったことや推測できることなどをまとめた。

### ■飼育・観察期間

- 1 例目 :2014年5月29日～6月5日
- 2 例目 :2014年6月19日～6月20日

### ■採取場所

- 1 例目 : 神戸市須磨区旗振山
- 2 例目 : 神戸市垂水区自宅周辺

### 結果

#### I. まずはアラカシで実験

2014年5月29日(晴れ, 最高気温 27.5℃, 最低気温 20.7℃) に1例目のアカシジミを旗振山にて採取した。新鮮な個体でお腹の大きな♀だったので、早速、その日のうちに実験を試みた。食樹であるアラカシの枝(写真1)は、娘が調達してきたもので、樹木の根元から

生えてくる若芽のひこばえで、今年伸びた緑色の枝と茶色の古い枝のもの。それらを径約20cm, 高さ約30cmの円柱型の洗濯ネット(写真2)に入れて様子を見た。すると翌日には、緑色の枝の方にだけ、卵を確認することができた。アカシジミ特有の繊維状のもので隠すように産みつけられた卵(写真3)は2か所にあり、いずれも葉柄の根元の辺りに産みつけられているという共通点がみられた。

#### II. コナラやクヌギでも実験

次にアラカシだけではなく、他の食樹でも産むのか、その選好性について調べてみることにした。

室温や時間などの環境は、概ね同様の条件下で、コナラの細い若芽を入れて様子を見たが、卵は確認できなかった。さらにクヌギに替えてみたが、これも変化は見られなかった。

そこで、他の蝶の人工採卵では強い日光に刺激されて産卵する傾向にあったので、明るさが関係しているかどうかを確かめるために、洗濯ネットごと、日中の屋外に出して観察してみた。2014年6月5日の気候は晴れ、最高気温 26.2℃, 最低気温 19.2℃。しかし、日差しに起因されることはないのか、卵は確認できなかった。



写真1, 2 食樹のアラカシの枝と産卵セット。



写真3 産みつけられたアカシジミの卵。

<sup>1)</sup> Noriko SHIMIZU ; <sup>2)</sup> Moeka SHIMIZU 神戸市垂水区

表1 1例目の実験結果

食樹	アラカシ	コナラ	クヌギ
産卵	卵2個	なし	なし

※屋外に置いてもコナラ、クヌギには産卵しなかった。  
 ※卵が産みつけられた場所は葉柄根元部分だった。

### III. 確認のため、再度アラカシで実験

I. II. の実験結果を受けて、食樹はアラカシが有効ではないかと推測した。また、卵の産みつけられた枝は、今年伸びた緑色の枝だったことから、今度は同様の枝を3本、給水スポンジに挿し(写真4)、洗濯ネットに入れた状態で室内にて様子を見ることにした。

その際、枝についている葉が、混み入っていて葉っぱ同士が重なり合うため、葉先1/3程度カットして、少しでも母蝶が産みやすいようなスペース作りを意識した。

6月19日(月)に自宅近くで採取した2例目の個体で実験したところ、翌日には、1例目と同様、また葉柄の根元部分(写真5, 6)に卵を発見。今度は2個並んだ

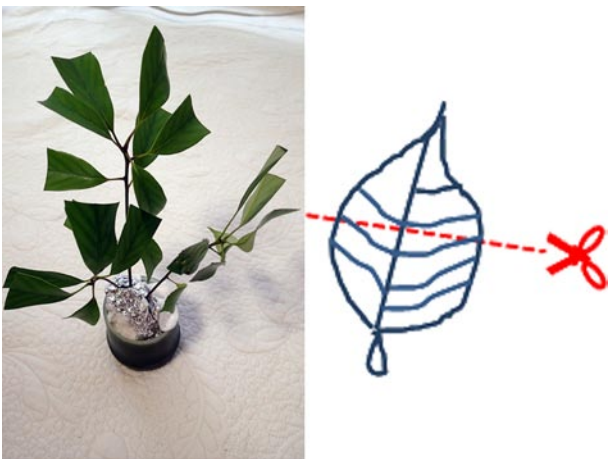


写真4 葉先1/3程をカットした。



写真5, 6 卵が産みつけられた枝と卵の拡大写真。

状態で産みつけられていた。残念ながら、産卵しているところを目にすることは出来なかったが、予想通りの結果となった。

その後も観察を継続しようと思ったが、母蝶は産卵後、まもなくして死んでしまった。

### 実験を終えて

1例目と2例目のいずれにおいても、アラカシで成功したことから、アカシジミは食樹の中でもアラカシを好むのではないかと推測できる。

さらに、同じアラカシでも茶色の古い枝ではなく、今年伸びた緑色のひこばえの葉柄の根元辺りが、卵を産むのには最適なのではないかと考えられる。

今回、2匹のみのアカシジミでの実験だったが、いずれも数日あるいは1週間と短命だったため、さまざまな実験をするには及ばなかった。

今後は、同様の実験を積み重ね、より多くの成功事例が報告できるよう、親子で継続して観察していきたい。

末筆ながら、ご教示いただき、発表を勧めていただきました久保さんに心よりお礼申し上げます。

